

平成31年度学校関係者評価(自己評価・「成果と課題」および「改善の方策」について)

1 本年度の学校経営

(1) 重点目標

- ア 学習指導の充実により、学習に対する意欲・関心を育み、確かな学力の向上を図るとともに、自らの考えを的確に伝え他と共有する態度・能力を育成する。
- イ 生徒理解を基盤とした生徒指導の充実により、規範意識や基本的な生活習慣の定着を図るとともに、困難に負けない強い心と他を思いやる豊かな心を育成する。
- ウ 発達段階に応じた健康・安全指導の充実により、体力の向上を図るとともに、自他の健康安全を適切に守る態度を育成する。
- エ 「部活動休業日等の完全実施」に向けて、部活動の指導・運営に係る体制を構築する。

(2) 学校経営方針

- ア 生徒一人ひとりが主体的に学び、自らの能力を磨く学校づくりを推進する。
- イ 生徒一人ひとりの感性と倫理観を培い、協調性と社会性を育む学校づくりを推進する。
- ウ 目指すべき学校像を基盤として、教職員の学校経営参画意識と共同意識を高めることにより、互いに身を語り、チームで切磋琢磨する学校づくりを推進する。
- エ 保護者と地域、学校の連携を重視するとともに、期待に応える魅力ある教育活動を展開し、信頼される学校づくりを推進する。
- オ 生徒や担当教員の健康・安全はもとより、生徒のバランスのとれた生活や心身の成長に配慮するため、働き方改革の視点を盛り込んだ部活動運営を推進する。

(3) 学校関係者評価基準

自己評価等の適切さについて	
A	適切な評価である
B	ほぼ適切な評価である
C	やや不適切な評価である
D	全く不適切な評価である

2 学校自己評価結果

自己評価基準(4:十分である 3:おおむね十分である 2:やや不十分である 1:まったく不十分である・改善を要する) 3.3以上 2.7以下

部 課	対 象	具 体 的 評 価 項 目	自己評価			成 果 と 課 題	改 善 の 方 策	学校関係者評価 自己評価等の適切さ
			h31	h30	h29			
学校運営	組織運営	1 生徒・学校・地域社会の実態に即した重点目標、経営方針が設定されている。	3.3	3.3	3.1	重点目標と経営方針の設定は、保護者アンケートから理解が得られていると判断する。また、それらの具現化による教育活動も概ね十分である。	型や時代の動向に対応しながら、目指す学校像の一層の明確化・焦点化を進める。	A
		2 学校経営方針が全教職員に周知され、協働のもと課題解決へ向け機動的に取り組んでいる。	3.0	3.1	2.9	各自が自律的に業務改善の意識を高めるとともに、より一層機動的・機動的に業務を遂行する必要がある。	学校課題、方策、解決工程を確実と共有し、分掌主の組織運営を実施する。	B
		3 各会議・委員会等として、学年・分掌業務の調整・連携が図られている。	2.9	3.0	2.9	教育環境の変化及び学校課題に対応して、各種委員会・分掌の業務について整理と体制整備が必要である。	教育活動を分掌・委員会が計画立案し、関係員全体で実施する体制の整備を進める。	B
		4 時間外勤務の削減及び教職員の健康を保持する取組を進めている。	2.4	2.3	2.4	部活動指導員の導入やスクールカウンセラーの配置を図るとともに、学校閉庁日の設定、部活動休業日の設定、勤務時間の削減制度の活用など、学校における働き方改革に取り組んでいる。	管理職のリーダーシップのもと、諸制度を有効に活用するとともに、業務の習熟と計画的・組織的遂行により効率化を図る。	B
	信頼される学校づくり	5 HPの更新や相談・通信等として積極的な情報発信・情報交換に努め、説明責任を果たしている。	2.9	2.9	3.1	HPの刷新に向けた取組に着手している。総務部の機能性を高め、より一層の発信力の充実に努めている。	個別にHPを更新するだけでなく、全体としてHPがどうあるべきかを改めて考える。	B
		6 地域の関係機関、中学校、保護者と連携した取組を実施するとともに、PTA活動が活発に行われている。	3.0	3.1	3.1	高大連携への取り組み、文化系部活動を中心とした地域活動への参加、PTAと連携した行事など、教育活動全般で取り組んでいる。より一層地域の教育資源を盛り入れる仕組みが必要である。	地域人材の活用や幼小中教育との連携をより一層進める。「総合的な探求の時間」をデザインするなど、地域との協力関係を構築する。	A
		7 教職員各自が不祥事を起こさぬよう服務規律保持を意識し、自己管理が適切にできている。	3.5	3.7	3.5	服務規律保持と自己管理の意識は適切に醸成できている。	心に届く職場研修など効果性のある取組を実施し、服務規律保持に万全を期す。	A
		8 学校課題に基づいた組織的・計画的な研修が実施されるとともに、教職員各自が校外研修や研究活動に積極的に取り組む。成果の還元を図っている。	3.0	3.1	2.9	管内外の研究会等に積極的に職員を派遣した。また、教育改善に関する校内研修会を教員用・講師を依頼し実施するなど、職員の資質向上の充実に努めた。	新学習指導要領や高大接続改革への対応に向けて、実際の取り組みを進めていく。	B
教育活動	学習指導(授業改善)の推進	9 教育目標、重点目標、生徒の実態を踏まえ、教育課程委員会をとおし、生徒の自己(進路)実現を図るよう教育課程の点検・実施を行っている。	3.1	3.1	2.9	生徒の実態を十分に踏まえた教育課程の編成に努めた。また、新学習指導要領に対応した教育課程の編成に向けて、委員会で検討し、完成関連である。	新たなカリキュラムの原案を作成するプロジェクトチームと教育課程委員会が具体的な編成作業を進め、完成させる。	A
		10 基礎・基本の確実な定着を目指し、生徒一人ひとりが達成感を得られるよう授業改善を行っている。	3.2	3.2	3.0	各教科指導における基礎・基本の徹底指導及び各学年の家庭学習時間の確保に向けた取組の検討が必要である。	継続指導及び国英数の学力養成を中心に習熟化を進める。	B
		11 探究形授業(アクティブラーニング型の研究)や教材の工夫・改善を図り、自ら学び自ら考え、課題解決に主体的に取り組む資力・能力の育成に努めている。	3.0	3.0	2.9	学力向上に関わる研究指定校事業(実証)を活用し、全職員への波及に努めた。	各教科における研修機会の設定、各種研究会参加の成果を全職員へ還元させる。	A
		12 評価の観点を明確にし、思考力・判断力・表現力を育成する評価を行うとともに、生徒一人ひとりの学力・学習状況を的確に把握し、個に応じたきめ細やかな指導を行っている。	2.9	3.0	2.9	シラバスに掲載及び適切な評価・考査の実施をさせた。	今後適切な評価・考査問題の作成をしていくとともに、時代の要請に適切に対応していく。	B
生徒指導	生徒指導	13 挨拶指導を中心に、身だしなみ・言葉遣いの大切さを理解させ、規範意識の育成や基本的な生活習慣の定着を図る指導を機会あるごとに行っている。	3.3	3.2	3.3	生徒指導部を中心に、組織的に挨拶や服装指導を実施した。校外にも目を向け、学校周辺や市内の公共施設などの巡回を実施した。	今後も生徒指導部と学年・担任が連携しながら、身だしなみ、言動、マナー等、外部や社会に通用する生徒の育成を目指す。	A
		14 個別面談を活用するとともに、保護者・地域・関係機関との連携を密にし、個々の生徒の姿を的確に把握した指導を行っている。	3.1	3.3	3.2	担任による個人面談を今年度で実施した。また、スクールカウンセラーを導入し、積極的に活用して学習を支援した。	スクールカウンセリング制度を有効に機能させる。	B
		15 いじめ防止基本方針に基づき、いじめ未然防止・根絶に向けた取組がなされている。	3.3	3.4	3.2	いじめのサインを把握した際、いじめ防止委員会や生徒指導部等で組織的に対応し、ネット利用に際するマナー指導の充実に努めた。	ネット・ロールの実践やネット・モラル向上のための講演を実施する。教育相談の充実を図る。生徒会主導によるいじめ根絶の取り組みを進める。	A
		16 生徒会活動、HR活動、ボランティア活動の活性化を図るとともに、生徒の自主性を育成するよう指導している。	3.0	3.2	3.0	生徒会活動から大規模までの清掃活動を実施したが、生徒会執行部に限らず一層生徒からの参加者が増えた。生徒会行事等、生徒会執行部を中心に生徒が主体的に活動できるような機会を創出するとともに、生徒の資質向上に努めた。	行事や生徒会の意義について改めて指導し、生徒のより積極的な自主的活動につなげていく。	A
教育活動	進路指導	17 部活動について、適切な指導計画のもと、自主性を高め、学習との両立を図るよう指導している。	3.0	3.3	3.1	本校の部活動に係る活動方針に基づき部活動休業日・活動時間を設定し、全部活動で目標達成できた。	部活動を生かし、元気を詰めず粘り強く社会に通用する生徒の育成を継続する。卒業高校部活動方針を毎年見直し、適切な部活動運営に努める。	B
		18 キャリア教育の全体計画に基づき、学年や教科及び関係機関と連携したキャリア教育が実施できている。	3.0	3.1	3.1	計画に基づき、計画的に実施することができた。	今後も進路指導部、学年、教科とより一層連携を深めていきたい。	B
		19 キャリア教育をとおして職業理解と自己理解を深めさせ、進路意識を向上させることができていく。	3.0	3.1	3.0	インターシップや就職学習会等を通じ、進路意識を高めることができた。一方、内定者の事後指導に課題が残る。	進路指導部と学年が連携し、内定者の事後指導を強化していく。	B
		20 進学・就職に向けて、生徒に各種模擬試験、検定取得、講習、模擬面接や就業体験等へ積極的・継続的な参加をさせることができていく。	3.1	3.3	3.2	模擬試験、検定を受ける生徒は、年により増減はあるが、高合格者の増加や公立大学に複数合格者や選抜性の高い大学へ挑戦する生徒が出てくるなど、成果が出た。	講習、模擬試験、検定を受けるべき生徒を学年と連携しながら把握し、進路指導部が中心となって指導していく。	A
		21 進路に関する情報・資料の収集・活用、生徒・保護者への情報提供・相談を積極的に行っている。	3.1	3.2	3.1	本年度もPTA進路調査会を進学向け、就職向けの2会場で開催できた。(進学92名・就職35名参加)	本年度も進路講座を進学(大学・看護)、就職(公務員・民間就職)に分けて、内容の充実を図っていく。	A
		22 家庭・地域と連携し、社会人として必要とされる能力を高め、進路希望を実現させることができる。	3.0	3.1	3.0	大谷高大連携(OOJプロジェクト)、市内ボランティア等への積極的な参加に努めた。また、インターシップの充実にも努めた。	芽室町夏休みボランティア、大谷高大のインターシップに参加するよう促していく。習熟の進路指導のなかで、必要な能力の育成に努める。	B
健康・安全指導	健康・安全指導	23 健康安全意識の高揚を図るとともに、実効性のある保健講座(薬物乱用防止・性に関する指導など)を行っている。	3.3	3.4	3.3	年間計画に沿って計画的に実施している。	外部講師の選定、講座内容について精査し実施していく。	A
		24 保健室利用状況から生徒の実態が把握され、養護教諭と担任・家庭との連携が密にとれている。	3.3	3.5	3.3	養護教諭、担任、教科担任間の連携、保護者との連携を取りながら生徒の実態把握に努めている。	今後も継続していく。	A
		25 教育相談や特別な支援を必要とする生徒への指導について、関係機関との連携と体制整備が図られている。	3.2	3.2	3.0	教育相談委員会を中心に、スクールカウンセラーを活用した相談体制の充実を図ることができた。	引き続き、関係機関との連携を深め、相談体制の充実を図っていく。	A
		26 交通安全・防災の意識及び危機対応能力を高め、関係機関と連携し、AED講習・避難訓練などをとおし効果的な訓練・指導ができていく。	3.2	3.4	3.4	AED講習や避難訓練を芽室消防署の協力を得て実施した。	ホームルームや委員会等、機会ある毎に交通安全・防災について呼びかけ指導を継続していく。	A
学校運営	事務部運営	27 教育活動に支障がないよう、全職員が協力し、校舎内外の施設・設備の点検・維持管理が適切に行われている。	3.0	3.1	3.1	施設設備維持に係る当初予算が少額であったため、予算が不足する工事については予算申請を提出した。結果前年度4年中3年分予算配分された。工事を実施したが、平成28年度で完了した大規模改修で実施されなかった設備等について、老朽が目立ち始めている状況がある。	北海道の財政状況を鑑み、年度当初における予算配分の大幅な増額は見込めないため、継続的な予算申請を行い、教委等に対して現状の理解等を訴える。	
		28 事務と各分掌・学年・委員会との連携(窓口業務を含め)が密にとれている。	3.2	3.3	2.9	分掌・学年・分掌等の購入要望を年度当初に集約し、限られた予算内で効果的・効率的な予算執行となるよう連携を密にすることができた。	予算の現状を各分掌・学年・委員会等と共有する。	
		29 学校事務効率化のために全教職員の協力体制が確立されている。	3.1	3.2	2.8	事務の効率化のため、消耗品等について教育用一括契約を行うため、教職員には早めの購入要望をお願いしている。事務用品や管理物品については、事務担当者で数量を把握しており、物品購入の効率化は一定程度図られている。	各種書類や要望について速やかな連絡を引き続きお願いをする。	
		30 全教職員の理解のもと予算が適切に執行され、外部団体における会計処理が適切に行われている。	3.4	3.3	3.1	公金・年度当初配分予算の概況を教職員及びホームページにおいて公開している。経費会計・適切な事務手続きを行い、選定がないよう努めるとともに、適宜変更を行っている。また、予算書・決算書を作成し、会計の透明化を図っている。	教職員の情報共有を図り、予算が必要となるものについては事前に打ち合わせを行い、計画的な執行に努める。	